

授業科目 の区分	専門科目	授業科目 欧 文	物質工学総論 II Introduction to Materials Science & Chemical Engineering II			講義 番号	C 1 0 7 C 1 0 8
担当教官名	対象年次	開 講 期	授業時数	選択・必修の別	単位数		
高部 啓彦・ 溝口 健作・ 東 直人	1	後期	30	必修	2		
曜日、時限		講義室					
概略	<p>専門科目の履修に先立ち、物質工学科の現在の研究内容を通して物質工学が現代社会にどのように役立っているか、また、将来どのような貢献ができるかを考えてもらう。さらに、物質工学的発想により社会のさまざまな問題を考察し、現在の技術社会の問題点に思考を巡らせ、解決策を探る姿勢を身につけてもらう。この科目では「物質工学総論 I」で不足している部分を補う。</p>						
一般目標	物質工学科の研究内容の概略を把握する。また、物質工学科と社会の関係について理解し、考える姿勢を身につけてることを目標とする。						
個別目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物質工学科の教官、研究室をほぼ把握する。</li> <li>2. 研究グループの研究内容について興味を持ち、概略を理解する。</li> <li>3. 現代社会における物質工学の位置について考える。</li> <li>4. 将来、物質工学が社会にどのような貢献をすべきか考える。</li> <li>5. 社会の一員として、どのように生活すべきか考え、実践してみる。</li> </ol>						
受講要件	物質工学に興味を抱いている、あるいはそう努めようとする態度を受講に際しての必要要件とする。						
履 修 上 の 注 意	地球、人間社会、日本、産業界、地域などさまざまな見地から物質工学を鳥瞰し、自らも考え、実践できるよう努める。						
授 業 内 容	1	各講義の内容は、担当者が事前に決め初回に案内する。					
	2	分子科学コースでは、総論 I につづき、分子（物質）がどのようにものの変化、動きに関わっているか、また、自然、科学、技術、社会、環境などを考える上、あるいは生活してゆく上でその知識がどのように役立つかを引き続き解説する。また、総論 I よりさらに具体的にコースの研究内容についても紹介する。					
	3	材料化学コースでは、					
	4	化学工学コースでは、現在の化学工学分野における日本国内の研究動向、各研究室における研究テーマの紹介を行う。					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						

	10	
	11	
	12	
授 業 内 容	13	
	14	
	15	
成績評価	受講態度、授業時レポート、聴講態度、出席数により総合的に判断します。	
関連科目	1年生前期に「物質工学総論 I」が開講済み。	
JABEE と の関連		
アンケート		
教材	各担当教官が配布プリント、OHP シート、ビデオ、パソコンによるプレゼンテーション等を用います。	
相談時間	随時	
連絡先	<b>【電話】</b> 高部：478-1148、溝口：478-1192 <b>【電子メール】</b> 高部： <a href="mailto:takabe@mat.eng.shizuoka.ac.jp">takabe@mat.eng.shizuoka.ac.jp</a> 溝口： <a href="mailto:tckmizo@ipc.shizuoka.ac.jp">tckmizo@ipc.shizuoka.ac.jp</a>	
備考		